Title:「潜水するひつじ」

高橋 知佳
1989年生まれ。他称・じゃじゃ馬。ついに本の世界から現実世界へと飛び込みます。

最近のエントリー
- シュークリヤー！ (2009.06.28)
- ガンガーから、愛 (2009.06.26)
- どうやら私にはインドが合っているらしい (2009.06.25)
- そして、カーリーのもとへ。 (2009.06.15)

アーカイブ
- 2009年10月
- 2009年09月
- 2009年08月
- 2009年07月
- 2009年06月
- 2009年05月
- 2009年04月
- 2009年03月

投稿カレンダー

カテゴリー一覧

ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
Your Vision, Our Future

RSS 2.0

09.06.28

シュークリヤー！

Tweet　Check

いままで訪問した国の中で、一番現地の言葉を覚えた国。それはインド。

ゲストハウスのレストランは食事を頼むと、長い時には２時間待たされるので。
その間、スタッフたちがちょこちょこと単語を教えてくれます。
おかげでヒンドゥー語での意思疎通も多少なら可能に。

「トゥム、メェ、ドーストゥ！（あなた、私、友達！）」

「モートゥー！（太っちょ！）」

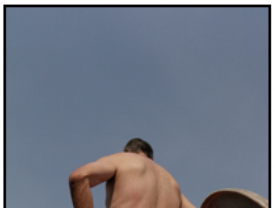
「エック パーニィ！（お水ひとつ！）」

構文までは知ったこっちゃないって感じですが。

↓ちなみに可愛らしいこいつは"チップカリー"。

チップカリーはここに宿泊中、２回頭に落ちて来て、１回踏んづけちゃいましたが、どのチップカリーも無事に壁に戻って行きました。

しかし、楽しかったバラナシともお別れ。
仲良くなったみんなともお別れ。



街の喧噪や、吹き荒れる砂風からガンガーを守るかのように、
ラビュリントスのように細かく張り巡らされた川沿いの路地。
進路を妨げるミノタウロスの子孫をかわし、
キャンバスのような壁から顔を出す、褐色の人々に視線を送る。
バラナシ。

これが最後だなんて思いません。
第三のホームの称号は、バラナシへ。

そしていまやブッダが悟りを開いた地、ブッダガヤです。
久しぶりの仏教！

マイケル・ジャクソンの訃報は、ブッダガヤのホテルにチェックイン中、フロントマンに教えられました。

カテゴリ：

post by 髙橋 知佳 | 日時: 2009.06.28 | パーマリンク | コメント (8) | トラックバック (0)

09.06.26

ガンガーから、愛

Tweet　　Check

朝、なにげなくボートに乗っていると、
豪奢な布に身体をくるまれたdead bodyがぷかぷかと流れている。
「おー。 本当に流れてるもんなんだなあ」
もはやミイラ化しているdead body。
ぼんやり見つめた後、数回申し訳程度にシャッターを押す。

写真をパソコンに取り込んで、はじめてはっとする。
「なんで気合い入れて撮らなかったんだ！？」
dead body目当てで来たって、首尾よく出会えるかなんて神のみぞ知る。
そんな千載一遇のチャンスを、なんで私は受け流したんだ！！
あのときボートを近づけていれば…
せめて縦位置で撮っていれば…

後悔のあまりふて寝。

翌朝。川沿いを散策し終え、ゲストハウスのあるガートまで引き上げた際、水面に異物発見。
目を凝らす。まさか、まさかのdead body。
折よくボートマンが声をかけてくる。
「ハロー、マダム。ボート？」
「イエス！！！！」
歯切れのいい返事に喜ぶボートマンのおっちゃん。
「火葬場に行く？　それとも対岸に行く？」
私は笑顔で首を振り、こう言った。
「dead body追っかけて」
「…エ？　エェー！？」
渋るおっちゃん。
「撮りたいの。追っかけて」
「…エー…しかたない、１００ルピーならいいよ☆」
「たっか！！５０ルピーにしてよ」
「…エー…いいよ☆」
「うし！」
そんなこんなで追跡開始。
昨日のとは正反対に、布で覆われているのは顔だけなdead body。仰向けに大文字を描いているdead body。
川に投げ込まれてどれくらいが経過したのだろう、至る所が膨張しているdead body。
ぬいぐるみからはみ出るのは綿、dead bodyからはみ出るのははらわた。
うーん、えげつない。

「これくらいでいい？」
５メートル地点でおずおずと聞いてくるおっちゃん。
キッとファインダーから顔を離す私。
「怖じ気づくな、おっちゃん！　more near！！」
「わお。お前は若いのにストロングだな」
「まあね！」
しかし、今度は近づき過ぎて衝突。舟底に引っかかるdead body。
私の真下で「アーレー」ともがくdead body。
「このまま火葬場でも見に行くかい？」
いや、お供としてはさすがに臭いがきつすぎるよ、おっちゃん…。

撮影を終え、ガートに戻り、ふうっと見上げた空。
視界に入るゲストハウスの屋上レストラン。
そのときようやく、馴染みの青年スタッフが私を眺めていることに気付く。
「はう…あなた、まさか全部見てたの？」
敬虔なヒンドゥー教徒の彼の目に、dead bodyと格闘する私はどう映っていただろう。
喉がカラカラだったせいもあり、とりあえず顔を出してみる。
いつも通りの笑顔で迎えてくれた。
ほっとしながら、冷蔵庫であらかじめ冷やしておいてもらったバナナラッシーをいただいた。
時間が経ったバナナラッシーは少し、dead bodyの肌の色と似ていた。
「これ、インドのラブ・ソング」
気をつかってか、青年が携帯で音楽をかけてくれた。
「うん、いいね」
しかし気持ちがほぐれた頃に、ふとdead bodyはどうなっただろうと外を見ると、
いつの間にやら岸に流れ着いていて、しかも犬が歩み寄っている！
「行かなきゃ！！」
犬がゲップして立ち去るまで、２回目の撮影。
またまた屋上から撮影風景を眺めている青年。
私はあれこれdead bodyの生前を想像したけれど、
彼はまさかこんなあられもない姿を、小娘に激撮されるとは思ってもみなかっただろう。
そもそも、ガンガーにそのまんま流されるとも思っていなかっただろう。

しばらくして再びゲストハウスからdead bodyを見ると、
今度は４匹の犬に弄ばれている。
「あぁ…行かなきゃ」
dead bodyと３回目のランデブー。
しかも顔のマスクが外れていた。運が良いやら悪いやら。
やっぱり屋上から青年に見守られながら、傍にしゃがみ込んでカメラを構える。

体中を犬にしゃぶられている同族の姿。別にこの光景が自由の象徴だとは思わない。
ただ、これで充分じゃないか、と思う。
魂が生まれ変わるかどうかなんて知らない。
でも身体はこうして搾取されたり、水や大地にほどけていって、確実に世界を廻り続けていく。
それだけで充分じゃないか、私には充分だ。
輪廻転生の象徴であるガンガーの前で、そんなことを思う。

青年は後からこう言った。
「ぼくは見るだけだよ。見るだけ」
彼によると、この日のバラナシの気温は５０度だったそうな。

カテゴリ：
post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.06.26 | パーマリンク | コメント (4) | トラックバック (0)

09.06.25

どうやら私にはインドが合っているらしい

Tweet　　Check

久々に再会したゆうきちゃんに、開口一番に
「なんかトモカ、元気だね!」
と言われました。
そう、元気なんです、私! もしかしたら日本にいる時よりも。
どうやらバラナシはすごく私の体質と性質に合ってるみたいです。
マラリア予防薬の副作用もなぜか出ませんし。
心配されてた食欲もばっちりです。真っ昼間に汗だくになりながら
チーズラーメン食べてます。インドのチーズ大好きです。

当たり前に宗教の話ができるのも、すごく嬉しいです。
そのあたり、さすが聖地！

ただ、火葬場は興ざめでした。
「ここはインドの女性は入っちゃいけないんだ。親族の火葬のときでも」
「どうして？」
「泣くからさ」
炎にあおられている黒く煤けた死相と、私の顔とを交互に見て、
「きみも泣きそうかい？」
と、にやにや。
思わずため息がもれました。せっかくの聖地が肝試し扱いですよ。

そもそも泣くことのなにがいけないんだ、と叫びたかったです。
７年前の祖父の葬式を思い出しました。
棺が機械に淡々と突っ込まれ、燃焼中のランプがぽっと点ったときに、
「いややわ。あんな、物みたいに…」
と呟いた叔母の、その涙。

ここではちゃんと人の手で焼かれ、約３時間、
徐々に風に紛れて消えていくさまを見守ることができるのに。
「女は泣くから」
それだけの理由で立ち会うことができないんです。
生者のことも死者のことも、愚弄しているようにしか思えません。

そのせいか火葬場でもっとも印象に残ったのは、
遺体が焼かれているすぐ脇で、えさを求めてもそもそと地面の匂いをかいでいる、
牛の大きな背中。

牛といえば、民家に併設されている牛小屋を見学させてもらったのですが。
大量の排泄物のせいで、床はもはや沼!!
そのとき一緒にいた地元の青年は、
「ごめんトモカ…ぼくは外で待ってるよ」
と入りもしない。
あんにゃろ〜と思いながらもガスで充満する室内へ突入する私。
このとき、足元はビーチサンダル。
べちゃ　べちゃ　べちゃ　…ズルッ!!!
「Oh!! Be careful!!!」
言葉ばっかりで手を貸してはくれない、牛飼いのおっちゃん。
なんとか尻餅はつかずにすみましたが…
帰り際にヤギのシャアアが足首にかかりました。
「ヤーギィィィ…」
カーリー寺院のしっぺ返しか、と受け止める他ありませんでした。

あの空間を体験してしまうと、路上の排泄物なんかは
芥に等しい存在へと変わります。

本来不快に感じるはずであろう出来事もそれなりにありましたが。
それでも嫌いになんかなれないバラナシ。
もしも私がバックパッカーだったのなら、間違いなくここで沈没していたと思います。

カテゴリ：
post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.06.25 | パーマリンク | コメント (0) | トラックバック (0)

09.06.15
そして、カーリーのもとへ。

Tweet Check

チェンナイでの指定泊も終わり、みんなとはしばらくお別れ。
私は熊倉局長とコルカタへ飛びました。

「いままでインドで食べた中で一番おいしい！」と局長大絶賛のカレー。
これを食べてスタミナをつけたところで、お目当てのお寺へ行きます。

"カーリー寺院"

撮影禁止ですので、こんな微妙な写真しかありませんが。
右隅の沐浴場は、ガンガーの水を運んできたものらしいです。見事な抹茶色。

敷地内は祈りに来た信者でゴッタ返していて、あからさまにうさんくさいガイドを
振り払う余裕もなく、両手いっぱいに花やら輪やら、お供え物を持たされました。
寺院は外側がすべて信者が並ぶための廊下になっており、
女性は静かな一瞥をくれ、男性は興奮の雄叫びをあげ。
色と音が入り乱れた空間でした。

とある場所で、例のガイドが大音声に、廊下の信者たちへなにやら呼びかけました。
乱闘寸前の信者たちが目の前で、一瞬、左右へさっと分かれました。
そして歓声、「カーリー！！」
信者が退いた奥には小さな扉があり、中には黒々とした光彩のリンガが。
そのさらに奥にまた空間はあるものの、深い闇に呑まれていてなにも見えませんでした。
きっと、その中にカーリーはいたのでしょう。きっとね…。

さらに信者の列をすり抜け、すり抜け、小さな柵に囲まれたブースへ。
ヤギの断頭ブース。
リンガのように長い断頭台。
頭部は鈍い音を立て、床へ。身体は抵抗していた反動で、遥か後方へ。
ピタピタと、その身体がいまだ動きを止めないうちに、人々は断頭台へ群がり、
真新しい血を、サドゥーに額に付けてもらっていました。
流れで私の額にも赤く、ぽちり。
血で真っ赤に染まった床は、裸足にはずいぶんと生暖かいものでした。

ヒンドゥー教の濃厚さを、肌で知った一日でした。

最も有名な聖地・バラナシにはこれから行くところですが、
きっとバラナシだけでは駄目だったろうという気がします。
撮影禁止だろうとなんだろうと、コルカタは私の作品にとって確かに要の街でした。

カテゴリ：
post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.06.15 | パーマリンク | コメント (5) | トラックバック (0)

09.06.13

マレーシア最終日

Tweet　　Check

マレーシア最終日、インド出発前日。
あいかわらず準備はいつもぎりぎりで、慌てて午前中から買い出しにでかけたりもしましたが。
この日は、大先輩・１期生徳田さんの晴れ舞台もありました。

卒業生アンディさんのお店、KISSATENの屋上でスライドショーの上映。
FWの先輩が実際に海外で活躍している様を目の当たりにできる貴重な機会。
パッキングなんて後回し！てな感じでした。

英語でのスピーチということで、さすがの徳田さんも緊張しているように見えましたが、

いざスライドが始まると、堂々とマイクを握っておられました。

さすがです！

そして次の主役はこのお方。

お誕生日おめでとうございまーす！

さっそくケーキにろうそくを。
ハート型にするつもりが…あらら？な形状になったので、
大輔の大の字に急遽変更。

若干ケーキにろうが垂れましたが、まあご愛嬌！
長坂先生のお子様も今日が誕生日だったようですが、なにせ父はマレーシア…
先生、心を痛めておられました。
愛息の記念日も犠牲にしてまで１ヶ月弱、引率してくださってありがとうございました。
良い写真を撮ることで恩返しができればいいんですけどね…強気発言は控えます。

早朝、ついにマレーシアを後にしました。
もはや第２のホームとなっていたマレーシア。
なんだか、日本出国のときと似た気分に陥りました。

長いインドが始まりました。

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.06.13 | パーマリンク | コメント (3) | トラックバック (0)

09.06.11

シンガポール、羽ばたき編

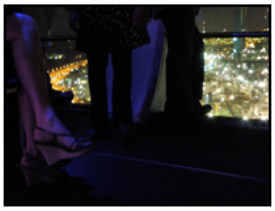
Tweet　　Check

写真展のために訪れたシンガポールでしたが、
空き時間にはちゃっかり、シンガポールのハイライトを観て回ったりもしていました。

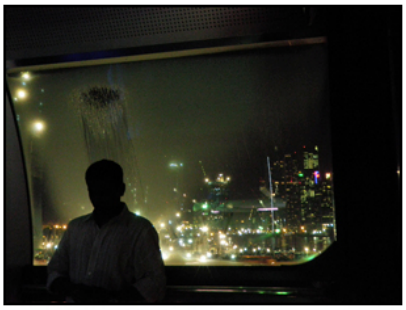
普段撮影場所以外にはあまり出掛けない私たち４期生ですが、
１期生徳田さんをガイドに、思い切り羽をのばして来ました。

なにやら世界一らしい観覧車、シンガポール・フライヤー。

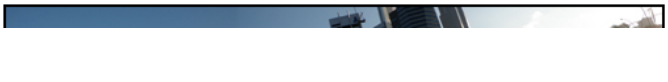
ひとつのゴンドラに２０人以上乗れるのに、価格がなんと２０シンガポールドル強！



宝石を散りばめたかのようなシンガポールの夜景が、
それだけ魅力的ってことなんです。

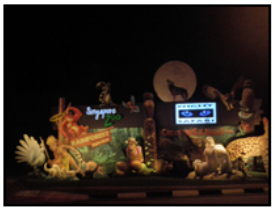


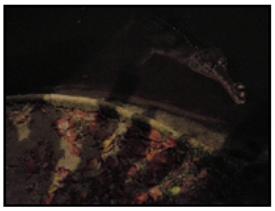
前回も登場したマーライオンは、今回はパノラマで。



世界三大がっかりなんて、誰が言った？　って思うくらい、私は気に入りました。
なにせ常に虹を作っちゃってますから。

そして夜しか営業しない珍しい動物園、ナイトサファリ！

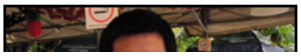




大丈夫なの！？　というほどの至近距離で動物を観れます。
ただ園内は、明らかに一回行くだけでは回りきれません。
夜だけ営業、短すぎる…

そんなこんなでマレーシアに戻る日になりました。
夕方のバスのため、１４時半が集合時間。これは有効に使うっきゃない！
と、他のメンバーが無難に美術館やらなんやらを選ぶ中、
徳田さんとふたりで朝っぱらから弾丸サイクリング。

２時間かけて、ウビン島という小さな島へ。



初めてマウンテンバイクってやつに乗りましたが…
私には高度すぎました。片手運転とか無茶です。
自転車に乗っている最中の写真がないのはそのためです。

あげくの果てに上り坂では、徳田さんに背中を押してもらう始末！
すいません…

でも大自然の中で体を動かすのは、いいものですね！

しかし汗を乾かす暇もなく、さっくりと島を後にして、競歩で集合場所へ。
ウビン島滞在、約２時間。本当に弾丸でした。

それでも次の日の筋肉痛は思っていたよりも軽い症状。
バックパックで少しは鍛えられたのかな、とちょっとにんまり。

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.06.11 | パーマリンク | コメント (4) | トラックバック (0)

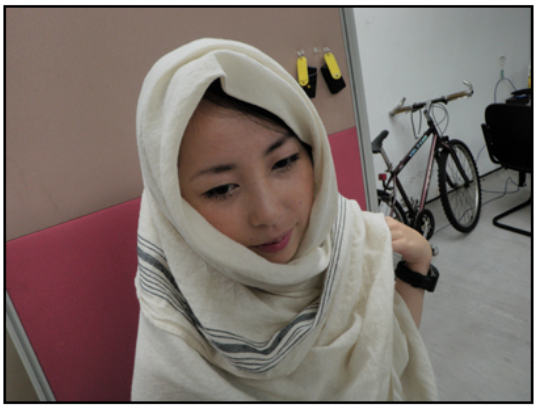
潜水するひつじ > 2009年06月 アーカイブ

09.06.10

マレーシア〜シンガポール

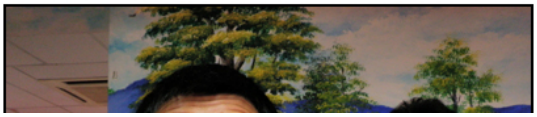
Tweet　　Check

第一回スクーリングは、引率ブログなどを読んでいただいてもわかるように、
無事終了いたしました。
多忙な中、たった４人の４期生のためにマレーシアまでお越し下さった飯塚先生・鈴木先生。
ありがとうございました！
膨大な写真の枚数にもかかわらず、一枚一枚に丁寧に目を通してくださって、恐縮千万…
二回目のスクーリングではちゃんと、ベタの時点からセレクトしますね。



↑もっとも撮影量の多かった山本さんは、プリントの疲れからか哀愁を漂わせておりました。

カーリーは正夢にはならずにすんだわけですが、テーマに対するもやもやを再認識…
インドでの撮影がひどく不安にもなりましたが。
結局は着実に撮れるものを撮るしかないんだよ、と徳田さんからお言葉をいただきました。

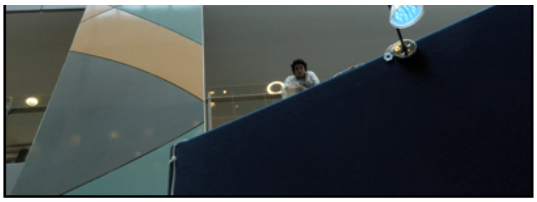


そして久々の国境越え、シンガポールです！

マーライオンの顔は、なんだかうちの犬がおやつをねだる時の顔に似ていましたが、
それはさておき。
オリンパス様のご好意により、ここシンガポールでは写真展を開催させていただけました。

展示写真には、大事な相棒・μTough6000で撮影した写真を使用しました。

準備風景。



完成！

ショッピングセンターの１階、出入り口のすぐ目の前というすてきな場所を提供していただきまして。
お目当てのお店があるだろうに、買い物袋で手が塞がっているのに、
立ち止まって、じっくりと写真に目を通してくださるシンガポールの皆さま。
すごく、嬉しくなりました。
中には露出や構図について細かく質問してくださる方もいらっしゃいました。
写真を好きな気持ちに、やはり壁はないということですね。

オリンパス様、およびFWサポーターの皆さま。
ただの観光では決して味わえない感動を、いつもありがとうございます！
シンガポールも、大好きになりました。

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.06.10 | パーマリンク | コメント (2) | トラックバック (0)

Copyright 2009 All rights reserved NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

powered by OLYMPUS